

都市再生協議会【公共空間再編専門部会】 第3回会合 議事概要

1 会合概要

開催日時：令和8年2月19日（木）15：00～17：00

開催場所：今治市みなと交流センター「はーばりー」1階 みなとホール

開催目的：中心市街地の公共空間デザインに関する検討

主なテーマ：広小路（今治港線）の再整備案について

都市再生整備計画（案）について

社会実験の企画検討案について

「中心市街地まちづくり市民会議2025」について

その他

2 発言概要

(1) 広小路（今治港線）の再整備案について

① バス事業者・沿道事業者との協議

- ・沿道事業者の協議について、現時点では関係者全体のうちどのくらいの方々と話ができているのか。
→現時点で協議ができているのは、全関係者のうち2割程度。3月末までには全関係者のもとに足を運び説明を行いたいと考えている。
- ・バス事業者からはクスノキの枝がバスの走行の支障になるとの意見が出ているが、今後どのように対応しようと考えているか。
→道路管理者としては道路の建築限界に基づき、クスノキの枝打ちを行ってバスの走行に支障がないよう空間を確保する考えである。枝打ちは年度明け（4月以降）を予定。
- ・歩道の一部でかけられている屋根が景観を損ねているが、沿道事業者との協議において話はしているか。
→道路管理者として話をしていかなければいけないと考えている。

② 幅員構成（主に車道）

- ・道路管理者として、広小路（今治港線）の再整備案は地域の皆さんの意見を聞きながら変わっていくものだと考えている。交通機能に関しては円滑に安全に通行出来ることが重要であるが、バス事業者からはバスの走行には車線3mだと狭く、荷捌き車や緊急車両が走行する際に支障がないのか等意見をいただいている。車線幅員のコントロールポイントとなっているクスノキについては、移設の議論もあってよいのではないかと思う。社会実験を通じて柔軟に対応していけるとよい。
- ・緊急輸送道路であり、大規模地震の際には港に集まった物資を輸送するための道路として利用される。倒壊した家屋をのけてでも車両が通行できる必要があるが、現状の車道幅員は狭いと感じる。実証実験の結果次第だが、クスノキの移設などにより車道を広げておいた方がよいと思う。
- ・自転車専用通行帯について幅員2.0mは必要ないかと思う。
→今治市の自転車交通ネットワーク計画との連携を図りながら、検討を進め

ていきたい。

(2) 都市再生整備計画（案）について

① ネウボラ拠点施設・MICEの進め方

- ・都市構造再編集中支援事業に含まれるネウボラ拠点施設やMICEの整備について、具体的な進め方や整備位置について現在の状況を説明して欲しい。
→ネウボラ拠点施設については、DBO方式で整備を進めており、令和8年1月に公募を開始した。令和8年度に事業者選定を行い、令和9年1月から事業を開始し、令和12年の完成を目指している。MICEについては、昨年基礎調査を実施した段階であり、来年度以降に機能や規模等の基本計画の策定を進める予定としている。

② まちなかウォークラブル推進事業の対象区域

- ・計画図において黄色で示されている区域の具体的な内容について説明して欲しい。
→対象区域には広小路のほか、公園や公共的空間も含まれており、まちなかの回遊性向上のための案内サインや情報板の設置などを検討している。

(3) 社会実験の企画検討案について

① 評価指標について

- ・都市再生整備計画の評価指標とは別に、社会実験について、人の滞在時間や沿道の事業者の収益の変化等、実態を把握できる評価指標を検討できると望ましい。

(4) 「中心市街地まちづくり市民会議2025」について

① 感想

- ・多様な参加者が集まり、さまざまな意見交換が行われた。特に、まちづくりのソフト面について熱い思いを持つ参加者が多かったと感じた。
- ・行動変容が必要。リスクを負ってもやる思いを持っている方々が多くいた。高校生からのアイデアとして出ていた、横丁の計画も動き始めている。

② 高校生の活動の場

- ・高校生の地域活動について、3年間では活動期間が短いのではないかとの意見があり、卒業後も地域おこし協力隊のような制度を活用して活動を継続できる仕組みがあるとよいのではないかとの提案があった。高校生が地域活動に主体的に関わっている実態もあり、若者の意欲を活かす制度の検討を市として進めてほしい。
- ・社会実験も高校生の活動の場となると望ましい。

(4) その他

① 駅前広場

- 今後のまちづくりに向けたキーワードは滞留。i. i. imabari!推進課と今治あきない商社が、2月14日から3月29日までの期間で、今治駅前で観光案内所を活用した Bari-ショップ、キッチンカーの出店による賑わい創出の実証実験を行っている。レンタサイクルターミナルの社員に聞いたところ、滞留行動が見られ始めており、人の流れが変わったと聞いている。
- まちなかりビングの経験を踏まえ、JRとも協議して実証実験を行うことになった。県外の人も訪れている。
- 今治あきない商社との連携についても、今回の実証実験をブラッシュアップしてできればと話している。来年度の広小路の社会実験では、駅前の実験とも緩やかに連携にできるとよい。
- ハードとともにソフトも負けず劣らず重要。地域の皆さんが活躍する場づくりについても尽力いただきたい。